

連携地域別政策展開方針(素案)についての意見募集結果

令和7年(2025年)2月19日

連携地域別政策展開方針(素案)^{*1}について、道民意見提出手続により、道民の皆様からご意見を募集したところ、3団体1個人から、延べ8件(こども意見1件を含む)のご意見が寄せられました。

ご意見の要旨及びご意見に対する道の考え方については、次のとおりです。

※1：道央広域連携地域政策展開方針(素案)、道南連携地域政策展開方針(素案)、道北連携地域政策展開方針(素案)、オホーツク連携地域政策展開方針(素案)、十勝連携地域政策展開方針(素案)及び釧路・根室連携地域政策展開方針(素案)

意見の概要	意見に対する道の考え方 ^{*2}
<p>【道央広域・石狩、後志】(こども意見)</p> <p>○札幌や小樽はインバウンドが多すぎると感じるときがあるため、観光客数を制限してほしい。</p> <p>○道央地域の範囲が広すぎると思う。</p>	<p>札幌市や小樽市のインバウンド客については、昨今の円安なども背景に、年々増加傾向にあります。</p> <p>道央広域連携地域では、高齢者や子ども、外国人など地域住民が安全安心に生活できるよう地域公共交通の維持確保や多文化共生の推進など持続可能なまちづくりを推進してまいりますので、いただいたご意見に関しては、今後の施策の参考とさせていただきます。</p> <p>また、道央広域連携地域は、行政をはじめ経済、医療、教育、文化などの面で札幌市と結び付きが強い地域を広域的なエリアとして設定しています。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>【道央広域「地域重点政策ユニット」】 【釧路・根室「地域重点政策ユニット」】</p> <p>○KPIに「漁業生産額」を挙げているが適切か。</p> <p>○漁獲量の減少(水産資源の枯渇)がある中で資源回復をどうするかも重要な問題。目標として生産額を取り上げるのであれば、ICT等を活かして行う養殖・栽培漁業などに絞って行う方が良いということも考えられるため。</p>	<p>【道央広域連携地域(日高地域)】</p> <p>日高地域では、栽培漁業やICT化の推進を通じて、水産業の持続的発展に向けた生産振興対策を推進することとしており、これらの取組により得られる施策の効果を総合的に測る指標として「漁業生産額」を設定しているところ。</p> <p>引き続き、環境と調和のとれた持続可能な水産業振興の着実な推進に努めてまいります。</p> <p>【釧路・根室連携地域】</p> <p>地域産業の振興プロジェクトにおいて、ICTの活用をはじめとして、資源管理の推進や新たな養殖業の事業化などを主な取組方向としており、その効果も測る総合的なKPIとして「漁業生産額」を設定しているところ。</p> <p>引き続き、KPIの達成に向けICT等の活用や資源管理、新たな養殖業などの推進に取り組んでまいります。</p> <p style="text-align: right;">C</p>

<p>【道南「地域重点政策ユニット」】</p> <p>○KPIに「広域交通（路線バス）の年間輸送人員」を設定しているが、公共交通／路線バスに限定することが妥当か。</p> <p>○今後バス路線の減便が不可避である一方、オンデマンドバスやその他ライドシェアなどの導入も想定されることから、数値目標を置くのであれば係るモードも含めるべきと考える。</p>	<p>この KPI は、道南地域の自治体や交通事業者などとともに策定した「道南地域公共交通計画」においても用いられています。</p> <p>当該交通計画では、鉄道やバスといった現行の主な交通手段だけでなく、オンデマンドバスなどの導入も加味されていますが、中でも路線バスの年間輸送人員は、地域全体で展開されている交通手段であり、それぞれの関係者が取り組むべき課題であることから、政策展開方針の KPI として採用したものです。</p> <p>引き続き、地域の皆様と連携しながら、路線バスはもとより多様な交通モードを活用した地域公共交通の最適化に取り組んでまいります。</p>	C
<p>【道北「主な施策の展開方向」】</p> <p>○主な施策「豊かな自然環境と調和した、安全・安心な地域づくり」の標題と取組の記載内容が一致していないように受け取れるため、修正が必要と考える。</p>	<p>「豊かな自然環境との調和」と、「安心・安全」のどちらにおいても地域づくりを行っていくことが伝わる文章へ修正いたしました。</p>	A
<p>【十勝「地域重点政策ユニット」】</p> <p>○KPIに「農業産出額」を挙げているが適切か。</p> <p>○3,079億円→3,444億円は、11.85%の伸び率ということになるが、昨今の物価高を踏まえると、それだけで達成の可能性もある。KPIは主要品目毎の産出量にするということも検討できるかと考える。</p>	<p>農業産出額は、農業生産活動による品目ごとの生産量に品目ごとの農家の販売価格を乗じて算出したもので、ご指摘のとおり物価上昇も加味されますが、農業産出額の推移から農業産出量のみならず、作付品目の変化や農業の現状と課題、地域経済への影響など様々な要因を把握できるため、最も適した指標として設定したところです。</p>	C
<p>【十勝「地域重点政策ユニット」】</p> <p>○KPIに「どさんこプラザでのテスト販売実績件数」が挙げているが適切か。</p> <p>○6次化、農商工連携、輸出拡大といった事象を捉えるにはどさんこプラザの販売実績件数のみでは不十分と感じられるため。</p>	<p>どさんこプラザでのテスト販売は、道内事業者が新規開発・改良を行った商品について、海外を含む道内外の店舗にて一定期間販売し、マーケティング活動に役立てていただく制度であり、地域における6次産業化や農商工連携を含む商品の開発・改良やブランド力の強化及び輸出を含む販路の拡大に取り組んだ商品について定量的に把握できることから、最も適した指標として設定したところです。</p>	C
<p>【釧路・根室「地域重点政策ユニット」】</p> <p>○KPIに「北海道への移住相談件数」を設定しているが、移住窓口への相談件数のみでは、ワーケーションやちょっと暮らしなどの状況を捕捉できないのではないかと考えられるため、移住者数やワーケーション来訪人数などの実績値も加える方が望ましいと考える。</p>	<p>移住者やワーケーションなどの来訪者にあたっては、転勤や就学による転入や、滞在方法など様々な態様があり、正確に把握することは難しいため、KPIについては本道への移住等の興味・関心度を測る指標として総務省が毎年調査・公表している「移住相談件数」を設定しているところです。</p> <p>引き続き、地域の皆様と連携しながら移住フェアや相談会等の開催により移住施策の着実な推進に取り組んでまいります。</p>	C
<p>【関連資料】</p> <p>○「次期連携地域別政策展開方針について」と「次期連携地域別政策展開方針概要版」で釧路・根室の「主な KPI」について、「漁業生産額」の記載の有無が分かれているが、記載内容を統一しなくて良いか。</p>	<p>ご意見の趣旨を踏まえ、「次期連携地域別政策展開方針について」と「連携地域別政策展開方針概要版」の記載内容を統一いたしました。</p>	E

※2：「意見に対する道の考え方」のA～Eの区分は次のとおりです。

A	意見を受けて案を修正したもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの
D	案に取り入れなかったもの
E	案の内容についての質問等

問い合わせ先

総合政策部地域創生局地域戦略課

電話 011-204-5148

内線 21-179